

みなみおぐに



平成25年8月

第92号

議会だより

平成25年6月定例会・5月臨時会 2

25年度補正予算・条例改正 など

一般質問 3～8

町政を問う

研修報告 9

全国森林環境税創設促進議員連盟記念大会

議会目誌・編集後記 10

美しい村連合にふさわしい
風景シリーズ①

表紙写真募集中！

詳しくは、本誌10ページ
『表紙写真募集のお知らせ』
をご覧ください。



志津：川湯

写真：観光協会

平成25年 第2回定例会

平成25年第2回定例会が6月11日から12日までの2日間開かれた。一般質問には6人が登壇し、町長の施政を質した。この定例会では、平成25年度一般会計補正予算をはじめ、特別会計補正予算など、7議案が提出され、慎重な審議の結果、全議案が可決となった。また、推薦農業委員の後任推薦決定、繰越計算書の承認、委員長報告・採択が行われた。

●補正予算

平成25年一般会計補正予算書（第3号）

主な内容

千ばつ対策補助金 60万円

町長専決処分

平成25年一般会計補正予算書（第4号）

主な内容

異動に伴う給料等の増減
庁舎建設関係 394万円
子育て支援計画策定 326万円

平成25年一般会計補正予算書（第5号）

主な内容

満願寺公民館解体撤去工事 450万円

平成25年特別会計補正予算書（水道・農集・公共下水道）

主な内容

異動に伴う給料等の増減

原案可決

●条例の制定

一般職の職員の給与の臨時特例に関する条例の制定

職員の給与削減

原案可決

●推薦農業委員の推薦

推薦農業委員の辞職に伴う後任委員の推薦

新農業委員

佐藤 千春さん（扇上）

推薦決定

●報告

繰越明許費繰越計算書について

承認

●委員長報告

町道中杉田鳥越線幅員拡幅及び杉田新井線水路改良について陳情書

採択

平成25年 第3回臨時会

第3回臨時会が5月15日に開催され、5議案の町長専決処分の承認と一般会計補正予算が可決された。

●町長専決処分の報告並びにその承認

平成24年度 南小国町一般会計補正予算書第14号

主な内容

事業費確定によるもの

承認

平成24年度 南小国町特定地域生活排水処理事業特別会計補正予算書第4号

主な内容

事業費確定によるもの

承認

平成24年度 南小国町公共下水道事業特別会計補正予算書第5号

主な内容

事業費確定によるもの

承認

南小国町税条例の一部を改正する条例について

主な内容

固定資産税等の改正など

承認

南小国町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

主な内容

地方税法の改正に伴う保険税軽減の特例など

承認

●補正予算

平成25年度一般会計補正予算書（第2号）

主な内容

庁舎建設関係 612万円

原案可決

地域おこし専門スタッフを！

平野 昭夫 議員



▼議員 地域おこし会社について

新たな南小国町の観光まちづくりを担うべき事業体が必要と思われる。町もこの点に関して専門スタッフ等の配置を早急に検討していくということだが、内容についてどのように考えているか伺いたい。

●町長 関係団体と連携しながら、町としても支援してゆきたい

観光の入り込み客の推移は、平成16年の約150万人をピークに、それ以後は下降気味である。質問の件に関して、まず、地域おこし協力隊は2名を要望しており、その役割として、2つのテーマで取り組んでいただきたいと考えている。一つは、特産品開発と地産地消、もう一つは、美しい村発掘と観光プログラムの商品化である。彼らには、関係諸団体と連携しながら共同で取り組みを強化していただきたい。次に、商工会の全国展開事業の中で、観光の新しい組織立ち上げの意見がでてくるようだが、町としても協力に進めてゆきたい。また、観

▼議員

光協会も新しいスタッフを雇い入れ、観光事業の強化を図っていくというようなことも言われているので、各組織が連携して一つの組織としてやっていけるのかを煮詰めて、町としても支援してゆきたいと思う。

南小国町募集要項より 「地域おこし協力隊」

■地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化の進む地方に地域外の人材を誘致し、その定住・定着を図ることで地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした総務省事業になります。契約期間は2016年3月31日まで。地域おこし協力隊の活動終了後は、できるだけ南小国町に定住して、起業・就業し、町の活性化にご協力いただけるよう3年間の期間で町がサポートいたします。

【計画中の活動】

- ◆日本で最も美しい村の発掘と町民が南小国町を好きになる町づくりプロジェクト
- ◆特産品の開発と地産地消プロジェクト
- ◆南小国町を体感する観光プログラムの商品化

対象となる方

- 南小国町に生活の拠点を移し、住民票を移動できる方（地域おこし協力隊募集のため）
- 要普通運転免許
- 地域住民と協力しながら、地域の活動に取り組める方

南小国町の農産物を、海外に輸出するなどして、ブランド化できないか。

●町長

若い農家の中には、海外に向けて売っていきたいと意欲を持っている方もいる。意欲を持っている農家に対しては、積極的な支援をしてゆきたい。

▼議員

商工会の全国展開事業の中で、美しい杉並木をつくるプロジェクトというものがある。昨年は国道沿いの町有林の手入れをしたのだが、民間の杉並木を町負担で行えないか。

●町長

民間の方に働きかけはしてゆきたいが、いっぺんにはできないので、できることからやってゆけたらと思う。

▼議員

筑後川の源流として、この水資源を次の世代に引き継いでいくためにも、南小国の水源、水資源の環境保全のための町独自の条例を制定しなければいけないのではないか。

●町長

水資源についての条例あるいはその整備とか保護、そういったものについてどのような条例ができるのか、他地域の事例等も参考にしながら検討してゆきたい。

黒川にホテル進出計画があるが！

黒川 敏秋 議員



▼議員 黒川地区にホテル進出計画があるが町の対策は

黒川に大きな規模のホテル新設が今計画されている。このことについて、町の対応、今後の対策・この街並み景観条例等はどうなっているのか。

●町長

町の対策とすることであるが、平成16年5月に撤退した、アイレディース宮殿黒川温泉ホテルの跡地を購入された企業が、学生寮の事業、社員寮の事業、それからシニア向けの賃貸住宅のホテル事業と、そういった多岐に渡った事業を展開している会社で、まだ町には具体的な計画書と言うものは出ていないが、平成18年に国土利用法に伴い、売買届出に関しては県の方へ手続きがされており、その折には町と十分協議をするようにと言うことであったと。昨年6月に関係者も来られ、事前相談という形で、また今年の5月に関係者が来町され、この事業を進めて行きたいと言う

挨拶があった。

ただ、町が個人の土地に対して行う行為に関してとかよく言えるものではないと。そういったことで町としては法令にしたがって適正に対処していくしかないと思っている。

町には、南小国町住みよい環境の里づくり条例というものがあ、これにしたがって環境に配慮しながらの協議、事業をやってもらいたいということがあるので、条例にしたがった指導をしていくことになると思う。



旧黒川温泉ホテル跡地

幼児教育のための十分な人事配置を！ 町が主体となった体験学習宿泊を！

下城 孔志郎 議員



▼議員 保育園の現状と今後について

我が町にある3つの保育園は、施設整備や、幼児教育のための十分な人事配置について対策を講じるべき点があると思われるが、今後の方針についてお尋ねしたい。

●町長

町内には3つの保育園があり、平成25年4月1日現在で、市原保育園は定員90名に対して82名、中原保育園は定員20名に対して21名、黒川保育園は定員30名に対して22名が入園している。職員数は、市原保育園は正職員6名、嘱託職員5名、臨時職員5名、中原保育園は、正職員3名、嘱託職員2名、臨時職員2名、黒川保育園は正職員2名、嘱託職員2名、臨時職員1名で対応している。町内3つの保育園全体では、定員140名に対して、125名の園児が在園しているということであり、このうち3歳未満児は40名で、全体のおよそ3分の1が3歳未満児という状況になっている。

保育園職員・児童数（平成25年7月1日現在）

		正職員	嘱託(保育士)	嘱託(給食)	臨時(保育士)	職員合計	保育児童数
福祉課長(園長)	中原保育園	3	1	1	2	7	21
	市原保育園	6	3	2	5	16	82
	黒川保育園	2	1	1	3	7	21

る。

職員内容をみると、正職員は少なく、大半が嘱託職員や臨時職員で対応しているのが現状である。

施設整備や幼児教育のための十分な人材配置についてというところであるが、施設においては、黒川保育園が昭和51年に開設し築37年、中原保育園が昭和57年に開設築31年、

市原保育園は昭和35年に開設し、平成2年に全面改築して築22年を経過している。

黒川保育園は、耐用年数を若干3年ほどオーバーしているという状況ではある。人材配置については、正職員は少ないため、嘱託職員や臨時職員で対応しているのが現状である。保育士の募集は、正職員として募集をかけてい

るが、なかなか応募者が少ない状況で、子どもの出生数、あるいは転入者等を考慮しても、今以上に園児数が増加する要素は少なく、そのときの状況等を総合的に判断してそういった統合をするのかしないのか、そういったもののことを考えなければならぬというふうに思っている。

TPP 参加で世界農業遺産登録の活用を！

穴井 則之 議員



▼議員 TPP参加で町の農業の担い手は

環太平洋連携協定、TPPに参加した場合、本町のよう中山間地域での農業は非常に大きな打撃を受け、生産意欲をなくしてしまう可能性があるとされる。農業者の高齢化、担い手不足が進むなか、参加後の町の農業、農山村をどのように守り、担い手をどのように確保してゆくのか、また今回、阿蘇の世界農業遺産登録が決まりTPP参加の不安があるなか、この登録は阿蘇のみならず熊本県の農業に、大きく活力をあたえてくれるものと思われるが、TPP参加を控え阿蘇の世界農業遺産登録を、どのように活用していくのか町長に伺いたい。

●町長 農業後継者へ支援、新規就農者確保で

本町の農業後継者対策としては、農作業の受託組織等を再編し、産物の低コスト生産や数量、品質の向上を図り、担い手の育成や認定農業者への加入促進を図っていききたい。また新規に農業へ参入する青年

年農業者への土地情報の提供など収納に関するサポートや研修先農家の助成、新規就農者に対する青年就農給付金等を活かしながら、新規就農者を確保し農業後継者への支援をしていきたい。また阿蘇の世界農業遺産登録は、地域の農業、自然、文化等の保全活用をし、地域の良さを外からの目で再発見をして、これまでの農業に自信と誇りを持ち、農産物に付加価値を付け、ブランド力を高め農業だけでなく観光などの活性化につなげていけたらと考える。具体的にはまだ決まっていらないが、伝統的な阿蘇の農業を将来的にも活かしていけるような活用を考えていきたい。

▼議員 世界農業遺産登録は畜産の振興で

TPP参加後、農業の担い手不足はこれまで以上に懸念されるところだが、今後、農地所有者への土地利用について意向調査等をおこない、土地の賃借を町が仲介することにも必要ではないか。また、農業後継者の支援はもとより新

規参入の確保のため、農業体験あるいは研修等を幅広く募集し、参加者の中から本町への定住者を増やす試みもしてはどうか。

阿蘇の世界農業遺産登録は、草原との結びつき、維持活用が評価され登録が決定されたものと考えられるが、草原の維持は牛の放牧、野焼き等で管理されてきたもので、今後畜産の振興にもっと力をいれていくべきでは。

●町長 畜産の振興策を今後検討していく

赤牛の導入、種付けその他の補助制度で支援はつづけているが、農業者の高齢化とともに飼育農家、飼育頭数が減少しているのが現状だが、今赤牛の価格も上がり飼育農家の意欲もでてきたのではと思う。今後畜産の振興策は検討していきたい。

第25647号 (日刊)

2013年 (平成25年) 7月24日 水曜日

熊本日日新聞

第25647号 (日刊)

「TPP 現場から」スタート
日本が交渉に参加したTPPで、地方の勢はどう変わるのか。記者がそのヒントをくれるシリーズ「現場から」。

日本TPP交渉合流

農業5品目 情報収集加速へ
例外化が柱

マレーシア TPP交渉会合の日程

熊本日日新聞 平成25年 7月24日朝刊記事

温泉水の河川放流の水質汚染は！ 本町のインフラ整備への対応は！

荒井 邦生 議員



▼議員 温泉水処理システムの検討を！

本町は温泉利用施設がたくさんあるが、温泉水の河川放流は、水質汚染の原因につながると思う。筑後川の源流である本町に於いて何らかの対策を取るべきではと考えるが、町長のお考えをお聞かせ願いたい。

●町長 小国の水系は問題なし

筑後川の源流ということで河川の水質保持には気をつけてる。本町においても多額の費用を投じて公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽の町営設置など小さな自治体としては、積極的にやっていると自負している。水質汚濁法防止法に基づき、全国一律の排水基準が設けられている熊本県では小国の水系では問題ないと判断されている。

▼議員 環境省の補助金で

温泉施設を持っている側からしてみれば温泉水を河川に放流するのはよくないと思っている。本来だと浄化槽に入れたいのだが、温泉成分とか、

温度の問題で、入れられない、また、保健所の指導で入れられない状況である。環境省の補助金があるようなので検討をお願いしたい。

●町長 河川への影響調査を検討

環境省の温泉水処理システムの補助事業は、システム開発の補助ということで確認している。現在の温泉水処理システムは、莫大な費用がかかる。安価で処理ができるシステムの開発を願っている。どれだけの河川への影響があるか、調査を検討する。



温泉館きよら

▼議員 町内インフラ整備について

町内インフラ整備は住宅密集地については進んでいるようだが、水道、消火栓など整備が進んでいないところがあると思う。負担金等の問題もあると思うが、今後の町の対応をお聞きたい。

●町長 南小国町飲料水供給補助金の活用を！

水道事業においては、3月31日現在では1743世帯中1636世帯で給水を行っている。給水率93・3%になっている。整備の進んでいない地区は水圧の関係、費用がかさむ等の問題で接続できない地域がある。こんな地域には南小国町飲料水供給補助金の活用をお願いしている。2世帯以上の申請で限度額50万、費用の三分の一の補助となっている。

簡易水道に設置している消火栓は233箇所、消火栓と重複するところもあるが防火水槽73箇所となっている。消火栓だけではなく防火水槽等に対応していく。

▼議員 工事費の分割支払いの検討を！

補助金があるとの事だが、本官から200/300メートル離れていると数百万の費用がかかると思われる。50万の限度額では、本人負担の額が多額になるため給水を断念してしまう。町のほうで補助金と別に工事費を負担して分割で水道料金に上乘せして支払いをして頂く。下水道も同様だと思う。ご検討願いたい。



小国配水池

認定後の取り組み、課題は！ 町民へのサービス向上、職員の意識向上！

高橋 周二 議員



▼議員 世界農業遺産認定後の取り組みは

認定後の取り組み及び課題について町長の考えを。

●町長 県や国の支援を引き出しながら、地域の農業振興を図っていききたい

具体的な取り組みとしては、農協などと一体となった米等のブランド化。また、棚田オーナー制度や小中学生等の農業体験などによる交流促進を進めてゆきたい。課題としては、農業・農村振興施策の推進と実行。草原維持のために、牧野組合員の減少や高齢化の進展といった現状を、どう打開してゆくか。また、農業と食をどう結び付けてゆくか研究したい。

▼議員

現在世界農業遺産に登録されている他地域の共通の課題に、後継者不足が挙げられる。私は①経済的安定②地域住民の意識の向上③教育における後継者の育成が重要であると考えてるが、町長の考えは。

●町長

町の加工施設の改善や60年以降の木材の利活用。また、きよらカファサにおいては、農産品の品揃えや、観光協会と一体となった経営を考えてゆかなければならないと考える。



世界農業遺産授賞式

▼議員 役場の更なる活性化を

町民へのサービス向上、職員の意識向上など、役場の活性化に向けた対策は。

●町長 意識改革をさせながら、住民の期待に応えるような職員を育てていきたい

現在、職員にはスキルアップを目指し、いろいろな研修をさせており、地域のニーズに応えるような職員を育成してゆきたい。

▼議員

役場にとって町民とはどのような存在だとお考えか。

●町長

職員は町民の奉仕者であり、町民の幸福量を引き出すことが私どもの責任である。

▼議員

「住民は株主であり顧客。行政は住民サービスを扱う商社である。」この言葉に私は非常に共感を覚える。そのように考えたとき重要なことは、職員のやる気をいかに引き出すかである。そのためには、年功序列ではなく、頑張っている人には正当な評価（昇給・昇格）をすべきではないだろうか。

●町長

この役場の中で、決して年功序列で年上から順番にそういった役職につくということはない。

▼議員

少なくとも私には年功序列にみえるのだが・・・現に20代で係長、40代で課長になった例が、他町村にはある。

●町長

そういったやり方は、私の信条にはあわない。現在、人事評価をやるうとしていますが、いきなり昇給とか降格にはならない。ただし正当な人事評価はすべきだと思う。

▼議員

町長の信条に沿った人事評価をして、南小町役場が町にとっての活性化の核となるよう期待している。

全国森林環境税創設促進議員連盟記念大会

研修報告 荒井 邦生

全国森林環境税創設促進議員連盟の第20回記念大会に高橋議員と私荒井が、出席しました。

今年は福島県の南会津町で開催されました。

11日の総会に出席の為前日より福島入りをしました。前日に相馬市、そして美しい村連合加盟の飯館村の視察に行きました。東京駅から新幹線で郡山に行きレンタカー借りて福島市、伊達市、そして相馬市へと入りました。海岸に行くともだまだ手付かずの防波堤を目の当たりにしました。畑だったのか、田んぼだったのか、荒れた平野が続きます。用水路の橋のガードレールは原型がなく物凄い力で押しつ



ぶされていた。車を走らせていくと家の残骸が小高く詰まれ、今も大型重機が作業を行っていた。あちらこちらに只今除染作業中の看板が目に入る。車は飯館村に入りました。津波の爪あととは感じられず、何か美しい村という雰囲気ではありませんでした。田畑は荒れて人一人出会うことはありませんでした。午後5時ぐらいだったと思います。現在は昼間の帰宅のみ許可されているとの事でした。すべての家はカーテンが閉じられ商店はシャッターが下がり駐車場には草が生え、生活の匂いが、まったくしません。飯館村に入る車はほとんどなく、赤色等をまわした警察車両にすれ違うぐらいだった。飯館村のはずれの峠にさしかかりました。人の気配を感じるようになりました。川俣町に入りました。学校や商店など立ち並び活気にあふれていました。数百メートルの

差でこんなに違うのか、不思議に思いました。あらためて津波の脅威と原発事故による被害を感じました。

11日早朝、南会津町へと向かいました。途中、鶴ヶ城を見学しました。大河ドラマ『八重の桜』の影響か、平日にもかかわらず大勢の人で賑っていました。その後、大内宿に向かいました。

山奥の中にかやぶき屋根の家が数十件立ち並び幻想的なところでした。観光客が数千人いたと思います。平日なのにすごいと思います。集落の人が一致団結して街並みをつくったとの事でした。総会会場に到着しました。全国322



の市町村の代表議員が集結しました。板垣一徳会長（新潟県村上市議会議長）の開会の挨拶から始まりました。国会議員の挨拶を数名の方からいただいて事業経過報告、会

計報告など総会が進んでいきました。最後に大会宣言がありました。

私たち全国森林環境税創設促進議員連盟は、森林が果たす公益的機能とその重要性を広く国民に訴えらるとともに、森林・林業・山村対策の抜本的な強化をはかるため、二酸化炭素排出源を課税対象として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を市町村が推進するために必要な森林吸収源対策及び地方の地球温暖化対策に関する財源確保のための新たな税財源である全国森林環境税の早期実現を目指すとともに、石油石炭税の税率の特例措置による税収の一定割合を森林の面積に応じて譲与する仕組みの構築を期するため、全国の関係市町村議会が一致団結し、より強力に運動をすることを宣言した。



南小国町議会 広報調査対策特別委員会

〒869-2492

熊本県阿蘇郡南小国町赤馬場 143 番地

☎ 0967-42-1111(代) FAX 0967-42-1122

表紙写真募集のお知らせ

議会だより表紙は、92号より、「美しい村連合にふさわしい風景」シリーズが1年間始まりました。次回の発行は11月上旬ですので、その時期にあった季節の写真を募集します。応募作品はしばらく保管させていただきます。誌上公開等も予定しております。多数の応募をお願いします。(お問い合わせは議会事務局まで)

平成 25 年 議 会 日 誌

5 月	7	経済建設常任委員会	6 月	17	小国警察友の会総会
	14	戦没者追悼式		25	小国地区防犯協会総会
	15	総務文教常任委員会		26	J A 阿蘇通常総会
	15	第 3 回臨時会		27	広域議会全員協議会
	16	町村議会議長研修会	7 月	1	阿蘇市町村議会議長会総会
	16	町村議会議長会第 1 回理事会		2	南小国町庁舎建設推進審議会
	17	市町村正副議長・常任委員長研修会		2	広域議会臨時会
	28	町村議会議長・副議長研修会		5	小国地域中高一貫教育研究委員会
	29	町村議会議長・副議長研修会		12	九州北部豪雨災害犠牲者阿蘇市合同追悼式
	31	阿蘇地区保護司会通常総会		18	議会広報特別委員会
				26	町村議会議長・副議長研修会
6 月	2	きよらのさと薬局落成披露会		31	町村議会議長会第 2 回理事会
	3	議会運営委員会	8 月	4	阿蘇郡市人権同和研究大会
	6~8	小国公立病院研修		4	悠清苑納涼夏祭り
	11	第 2 回定例会			
	12	第 2 回定例会			

毛利美勝議長 県町村議長会 副会長に就任

6月4日に開催されました熊本県町村議長会総会におきまして、本町の毛利美勝議長が副会長に就任しました。今後とも、議会活動の活性化のために、大いにご活躍されますよう期待します。



猛暑続きの毎日、田んぼの稲、野山の樹木の緑は深みを増し、時の流れの早さを感じる。昨年7月12日北部九州豪雨災害が起きて1年が過ぎた。「災害は忘れた頃に起きる」といわれてきたが、今、災害はいつ起きても不思議ではない。幸いにして南小国町では近年大きい災害にはあっていないが、災害に強い町づくりはいつでも考えていかなければならない。昨年、甚大な豪雨災害にあわれた阿蘇市の、早急な復旧、復興を願わずにはいられない。(穴井則之)



発行責任者 議長 毛利美勝
広報調査対策特別委員会
委員長 穴井則之
副委員長 荒井邦生
委員 矢津田道夫
委員 高橋周二